透明塗膜防水材

セブンSS
水性 SS－T工法

施工要領書

2025年7月改訂版

Seven Chemical
株式会社 セブンケミカル

目次

1. 水性 SS－T工法の標準工程.....2

2. 適応下地.....2

3. 施工フローチャート.....3

4. 施工条件.....4

5. 施工上の注意.....4

6. 使用材料一覧.....5

1. 水性 SS－T工法の標準工程

工　　程		材 料 名	希 釈 （重量比%）	所要量 （kg/㎡）	工程時間 （H）	施 工 方 法
1	下塗り	水性セブンSシーラーⅠ	無希釈	0.1	3～24	中毛ウールローラー 刷毛
2	中塗り(1)	セブンSS	水道水 （0～5）	0.4	4～48	多孔質ローラー(中目～極細目) 刷毛
3	中塗り(2)			0.2	16～48	中毛ウールローラー 刷毛
4	上塗り(1) (艶有/半艶)	水性セブンSトップ	水道水 （0～5）	0.1	2～24	中毛ウールローラー 刷毛
5	上塗り(2) (艶有/半艶)			0.1	48～最終養生	

※　50mm 二丁掛けタイル基準
（吸い込みの多い下地の場合は上記よりも下塗り材の所要量が増えることがあります）

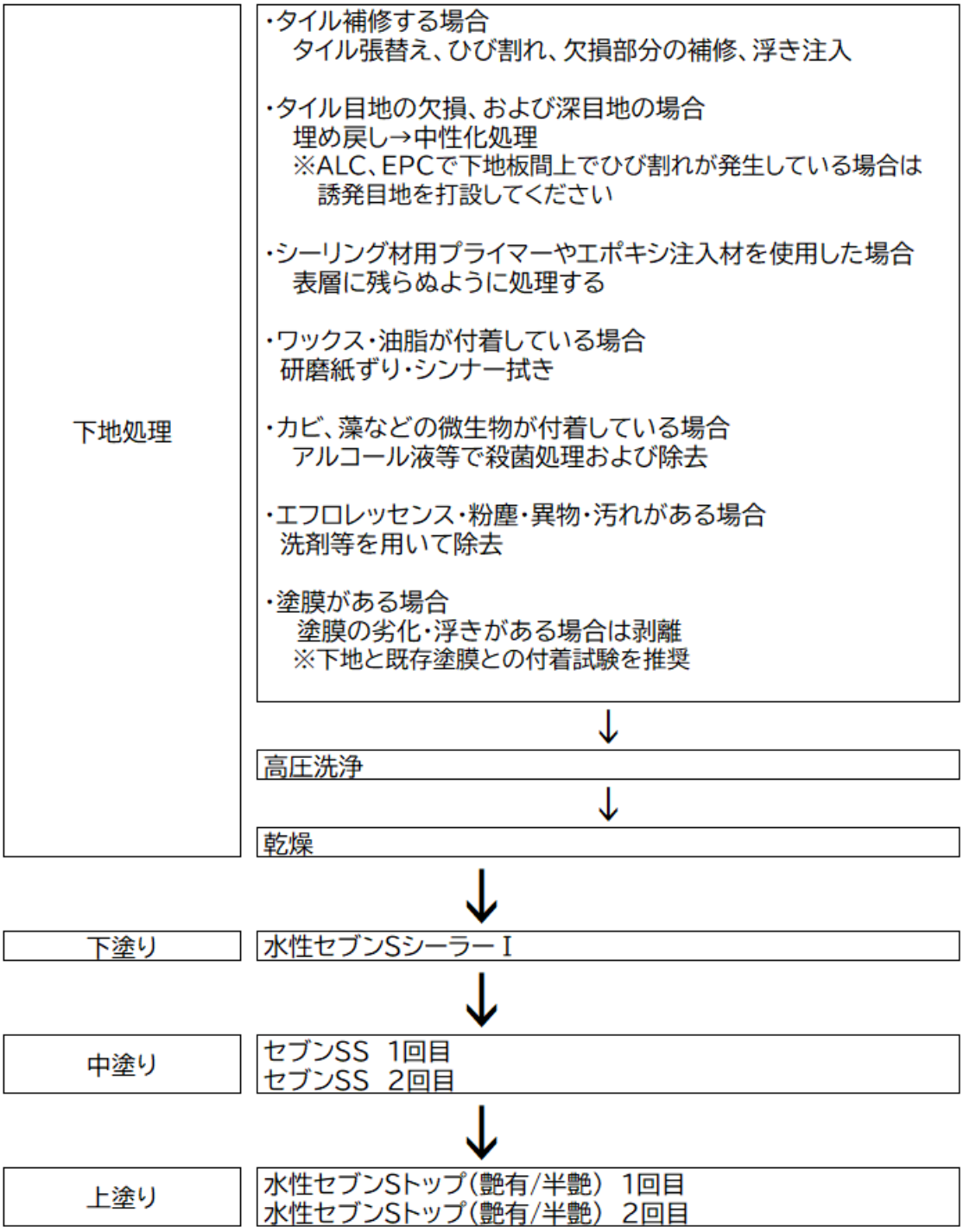
2. 適応下地

・タイル張り外壁面
　磁器質タイル
　せっ器質タイル

・各種塗装面
（仕上げ、および付着性は必ず試験施工を行って確認してください。）

※下地の凹凸の小さい面状を対象とします
※陶器質タイル、ラスタータイル、光触媒加工焼き付けタイルおよび石材はご相談ください
※既存塗膜の下地への付着性能を上げる機能はありません

3. 施工フローチャート


下地処理
・タイル補修する場合
タイル張替え、ひび割れ、欠損部分の補修、浮き注入
・タイル目地の欠損、および深目地の場合
埋め戻し→中性化処理
※ALC、EPCで下地板間上でひび割れが発生している場合は
誘発目地を打設してください
・シーリング材用プライマーやエポキシ注入材を使用した場合
表層に残らぬように処理する
・ワックス・油脂が付着している場合
研磨紙ずり・シンナー拭き
・カビ、藻などの微生物が付着している場合
アルコール液等で殺菌処理および除去
・エフロレッセンス・粉塵・異物・汚れがある場合
洗剤等を用いて除去
・塗膜がある場合
塗膜の劣化・浮きがある場合は剥離
※下地と既存塗膜との付着試験を推奨
高圧洗浄
乾燥
下塗り
水性セブンSシーラーⅠ
中塗り
セブンSS 1回目
セブンSS 2回目
上塗り
水性セブンSトップ(艶有/半艶) 1回目
水性セブンSトップ(艶有/半艶) 2回目

4. 施工条件

（1） 外気温が 5℃以下及び 35℃以上の場合は施工を避ける。
（2） 施工前から施工後にかけての乾燥硬化の過程で雨・結露・霧・雪・霜等が予想される場合は施工を避ける。
（3） 強風の時は塗材の飛散被害・塗付けムラ等の支障をきたすため、十分風養生対策を行うか施工を避ける。
（4） 花壇や擁壁など裏面からの水分供給が予想される部分への施工は避ける。
（5） タイルが接地面（GL）から張られている場合、毛細管現象による地面からの水分の影響を避けるため接地面から 10 ㎝程度は施工を避ける。
（6） シーリング材の上への施工は避ける。
（7） 全面を施工しない場合、取合い部から水分の影響を受けないようにシーリング目地で見切り施工を行う。
（8） 材料は、風雨・直射日光を避け 5℃以上の冷暗所で保管する。
（9） 使用する材料について製品安全データシート（SDS）を事前に入手し、関連諸法令を厳守して施工を行う。
（10）労働安全規則等に定められている安全規則に基づき適切な装具を着用する。

5. 施工上の注意

施工前の下地の洗浄不足、塗膜内への異物の混入、気泡を巻き込んだままでの表層硬化、液溜まりなどにより、意匠性を損なってしまう恐れがあります。下記に注意して施工してください。

（1）下地処理

① 下地の欠損やタイル下地を含むタイルの浮き、ひび割れ箇所などの下地処理を適切に行う。
② 目地が 3mm 以上の深さがある場合はタイルと平滑になるように埋め戻し、中性化処理を行った後に十分に目地モルタルを乾燥させる。
③ シーリング材用プライマーやエポキシ注入材は紫外線により黄変するため表層に残らぬよう処理する。
④ ワックスや油脂などが表面に付着している場合は研磨紙ずり、およびシンナー拭き等によって除去する。
⑤ エフロレッセンス、塵埃、付着異物は洗剤等を用いて除去後、洗浄剤成分が残らないように高圧水洗などを行い、十分に乾燥させる。
⑥ カビや藻などの微生物が生じている場合はアルコール液等で殺菌処理および除去する。

（2）下塗り

① 吸い込みの多い部分には追いかけ塗りを行い、表層にシーラーの成分がある状態にする。

（3）中塗り

① 指触確認し、下塗りの乾燥後中塗りを開始する。
② セブンSS を 0～5%水希釈し、均一に混合する。混合方法は、気泡が混入しないよう撹拌棒などで静かに「の」の字を書くように撹拌する。
③ 多孔質ローラー（中目～極細目）にセブン SSを十分に含ませ、気泡が混入しないように小面積ずつ配り塗り、均一に仕上げる。

※ 高温時の施工や塗継ぎ箇所で気泡混入による白濁する可能性があるため、施工時の下地の温度や塗重ねの時間差に気を付けて施工してください。

(4)上塗り

① 水性セブン S トップは 2 液型塗材のため、基剤および硬化剤をそれぞれ攪拌し均一の液体とする。その後、基剤 10:硬化剤 1 になるように計量し、十分に攪拌する。
② 施工環境に応じて、水性セブン S トップを「水道水」で 0～5%程度で希釈し、十分に攪拌する。
③ 半艶で仕上げる場合、艶消し材が沈降していることがあるため、混合前にハンドミキサーで十分撹拌し、塗棒、ヘラ等で缶のコーナー部の溜まりもキレイに落とし、良く混合する。
④ 中塗り材施工の翌日以降に乾燥硬化を確認してから上塗りを開始する。
⑤ 上塗り 1 回目を施工後、十分に乾燥してから 2 回目の施工を行う。(※1)
⑥ 仕上げ面は、十分乾燥硬化させるよう、24時間以上乾燥養生する。(※2)
⑦ 透明仕上げの為、塗り重ね回数による光沢の差異が生じる可能性があるため、目地部分で見切りながら塗るなどして、塗継ぎの際にラップによる光沢に違いの出ないよう施工を行う。

※1 トップコート完全硬化前に降雨があると完全硬化前の塗膜に水分が移行してしまい白戻りすることがあります。これは硬化完了前に水分を含んでしまうことにより施工前の乳白色の状態に戻ってしまう現象です。塗膜性能上の問題は無く、完全硬化されることで白戻り現象することはなくなります。

※2 昼夜の寒暖差が大きい日や高湿度、結露が発生しやすい時期はブラッシングが起きることがあります。施工時の気象条件にはご注意ください。

6. 使用材料一覧

工程	製　品　名	容　量	荷　姿	備　考
下塗り	1 液水性ナノカチオン 水性セブンSシーラー I	15kg	石油缶	—
		4kg	石油缶	
中塗り	1 液水性アクリルシリコン樹脂 セブンSS	14kg	石油缶	—
		4kg	ポリ丸缶	
上塗り	水性2液型アクリルシリコン樹脂 水性セブンSトップ 艶有・半艶	11kg ｾｯﾄ (基剤 10 ㎏/硬化剤 1 ㎏)	石油缶	基剤:硬化剤 10:1
		3kg ｾｯﾄ (基剤 3 ㎏/硬化剤 0.3 ㎏)	石油缶	

株式会社 セブンケミカル

東京都港区芝公園 2-4-1 芝パークビル A 館 12F
TEL 03(6809)2597　FAX 03(6809)2598
https://www.seven-chemical.co.jp